

暮らしの中の

科学技術映画祭 長官賞

日本産業映画・ビデオコンクール奨励賞

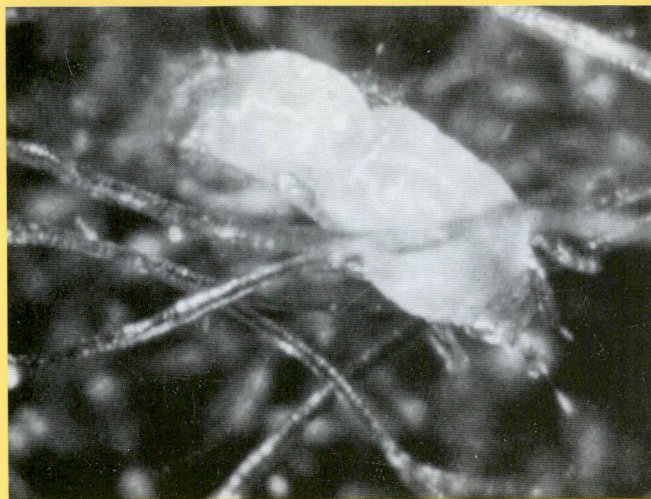
厚生省 推薦

文部省選定

ダニ

■記録映画・16ミリ・カラー・30分

■16ミリ・価格＝210,000円



■企画

中外製薬株式会社

■製作

株式会社 桜映画社

■監修

東京大学名誉教授

厚生省「ダニ問題研究会」座長

佐々 学

■指導

東京医科歯科大学医学部皮膚科

大滝倫子

群馬県立がんセンター東毛病院小児科

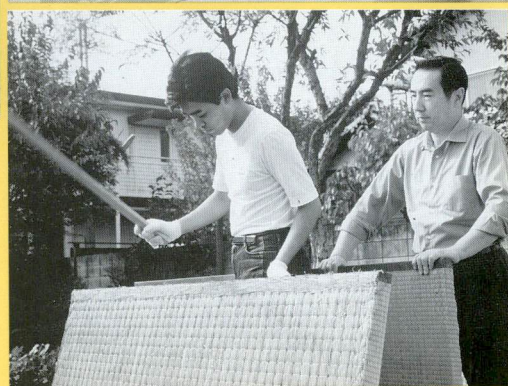
館野幸司

(財)日本環境衛生センター生物部

田中生男

東京女子医科大学寄生虫学

松本克彦



■製作意図

近年、暖かくなると方々の団地でダニ騒ぎが起き、新聞を賑わす。

しかし、ダニはきわめて小さく人間の目では見分けにくい。地上に数万種類以上いると言われているダニだが、本当の姿はほとんど知られていない。その見えないダニを見てもらう。この映画はまずそれを主眼とした。

ダニも恋をし、エサを求めて一生懸命に生きている。その微小な生きものの世界を目のあたりにすると、自然のしくみの神秘に感動する。

近年、急激にふえている小児ぜんそくの原因の90パーセントはダニだと言われる。ヒョウヒダニ、ケナガコナ

ダニ、ツメダニに代表される室内のダニの生態を明らかにしていくと、人間の快適空間が、ダニにとっても最も適した生活条件であることが判ってきた。

高温多湿の日本での最近の住宅建築において温度を外に逃さない工夫が、温度とともに湿気も家の中に閉じ込めることになってしまった。

この映画は、今まで誰も知らなかった興味深いダニの生態とともに人間の生活の知恵についても示唆に富む問題を投げかけている。

またダニの予防や駆除のいくつかの方法を紹介しているが、この本格的な研究は厚生省の「ダニ問題研究会」などを中心はまだ始まったばかりだという。さらに研究の進んだ段階で、ダニの予防と駆除を主とした続編をつくりたいと思っている。

■配給

■あらすじ

このごろ、ぜんそくに苦しむ子供が増えている。室内の塵の中にいる小さなヒョウヒダニのフンや死骸が主な原因といわれている。

しかし、団地でインタビューしてみると、ほとんどの主婦は「ダニはいないと思う」と答える。その住居の塵を集めて調べてみると、おびただしい数のダニが見つかる。

その90%までがヒョウヒダニである。このダニは刺すことはないが人のあかやフケ、食べ物のカスなどを好んで食べる。湿度65%、温度25度ぐらいの場所で、餌の水分含量が12%になると盛んに繁殖をはじめる。

ケナガコナダニは、水分をたっぷり含んだ量の髓やカビを食べる。チョコレートや七味唐がらしの中から見つけて話題を集めたこともある。

これらのダニをつかまえて食べるのがツメダニである。ツメダニは人を刺すとも言われているが、「ダニに刺され

た」と病院の皮膚科にやってくる人たちの99%は、ダニに刺されたのではない。いわゆるダニ・ノイローゼが増えているのも最近の特徴といえよう。

現在の生活の中では、さまざまな条件が、ダニの大量発生をうながしている。「家のづくりは夏を旨とすべし」といわれて来た昔からの風通しのいい家が減って、新建材や工法で家を密閉する冬型のすまいが増えてきた。それに夫婦共働きや長期旅行などで家を閉めきったり、つい掃除をおろそかにしたりすることが、ダニの発生を招く。

ダニの予防には、室内をよく掃除していつも清潔にし、晴れた日には窓を開け放って床や室内をよく乾燥させ、ダニが繁殖しないような環境をつくっていく。これらの配慮がこれからの健康な生活を保つために必要なことではないだろうか。

ダニの生態を初めて明らかにした映画

東京大学名誉教授
厚生省「ダニ問題研究会」座長

佐々 学

ダニというのは、節足動物のクモ綱に属する虫の総称であるが、そのうち人の目につきやすいのは、山野で人や家畜にたかり、吸血をするマダニという仲間である。しかし、自然界にはそのほかに何万種類という、きわめて小さくてほとんど人の目につかないダニ類が繁殖している。それらは、いろんな動物や植物の体に寄生している種類も多いが、土中や水中で自由生活をしているものもたくさんいる。

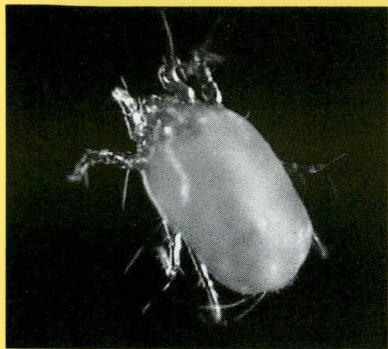
人家に繁殖するダニといえば、まずイエダニを連想する人が多いであろう。それは本来はネズミの寄生虫で、その巢内で繁殖し、時にはそれから這い出して人の血を吸い、かゆみをおこす。この虫はネズミがいなければ人の家には発生しない。ところが、最近になって、人家の埃や畳に繁殖するダニの問題がクローズアップされてきた。

この映画は、それらの代表的な3種類について、その秘められた生態を明らかにしたもので、私どもいわゆるダニ学者にとってもこの映画を見て初めて知った意外な性質をふんだんに明るみに出してくれた、学術上も極めて価値の高い作品である。一般の方々にとっても、その

可愛らしくてユーモラスな生活が大変楽しく見せてくれる反面、家内にいるダニの恐ろしさも教えられてびっくりされることであろう。

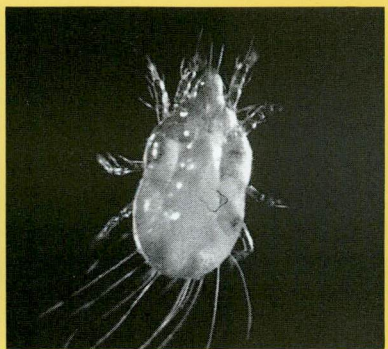
●ぜんそくの最大の原因はヒョウヒダニ

気管支ぜんそくという病気は全人口の何パーセントかの、アレルギー体質の人々を悩ませている難病の一つであるが、その患者のうちの8割とも、9割ともいわれる多数が屋内塵の中に繁殖しているヒョウヒダニという虫の死骸や排泄物を埃として吸入するためにこの発作をおこしているという、驚くべき事実が明るみにだされたのは最近のことである。このダニもいくつかの種類に分けられているが、それを初めて学術誌に記録し、デルマトファゴイデスという学名をつけたのは、いまから125年前のこと、ロシア人のボグタノフであった。そのダニが再発見されたのはそれから80年あまりもたって、1947年に私が患者の尿や痰の中にいるのを再記載した論文であった。この、いわば極めて稀に見つかる珍しい虫が、なんと人家の埃の中におびただしく繁殖しているというのがわかるまでにさらに20年あまり、それがぜんそくの最大の原因だと指摘されるのには30年もかかった。



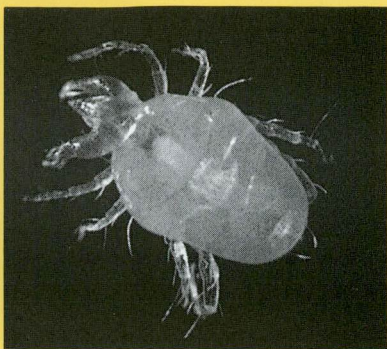
■ヒョウヒダニ

室内のチリの中にいるダニの90%を占めている。一般にチリダニともよばれている。人のフケやあかを好んで食べるが、人を刺すことはない。しかし、フンや死骸が小児ぜんそくの原因の90%を占めているといわれる。



■ケナガコナダニ

本来は食品などに発生するダニだが、時に畳に大発生することがある。人を刺すこともなく、ぜんそくの原因にもならないが、異常発生して人に不快感を与える。ヒョウヒダニよりカビが生える様な高温湿度の環境を好む。



■ツメダニ

ケナガコナダニやヒョウヒダニ等他のダニを捕獲して、体液を吸う。室内ダニ全体の2~3%を占めるといわれる。数が多くなると人を刺すこともあるが、吸血はしない。

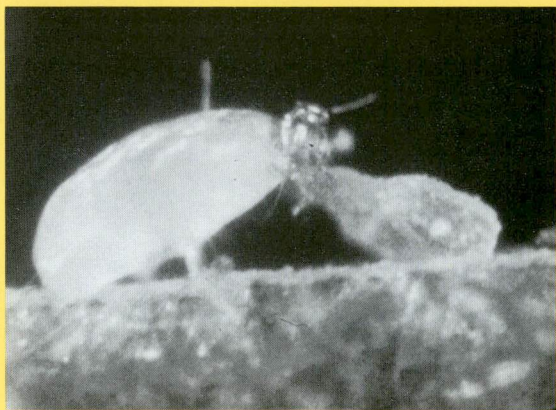
そのダニがジュースや布団の中にたくさんいて、人のおとすフケなどを食料にし、卵、幼虫、若虫、成虫と変態していく姿、さらに交尾、産卵、などの実態が人の目に見られるようになったのはこの映画が最初である。

●畳の中で繁殖するケナガコナダニ

家内に繁殖するダニとして、とくに我国で新しい問題になったのは、畳から出てくるケナガコナダニである。この虫は古い穀物、穀粉、粉ミルクなどに湧く害虫としては全世界で共通しているが、戦後になって日本で鉄筋コンクリート造りの住宅用地が造成されるや、その畳から白い粉を吹いたようにダニの大群が出て来て入居者がいたたまれなくなる事件が各地で多発した。これは、湿ったコンクリートの上に畳をしいたため、その水分が異常に上昇したための結果であった。この映画は、畳の材料となる稲わらの中でケナガコナダニが発育し、繁殖している姿を明瞭に示してくれる。これまた傑作である。

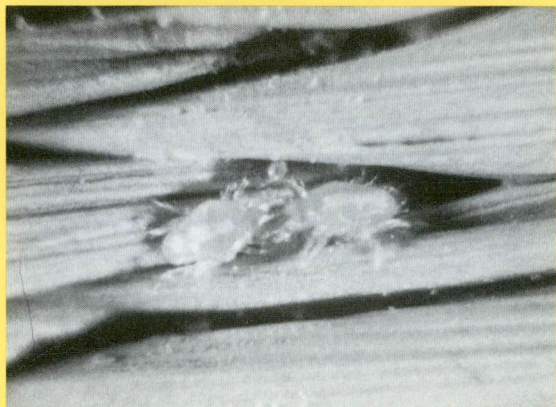
●他のダニを食べるツメダニ

屋内のダニ問題はそれだけでは止まらない。コナダニ類が繁殖すると、それをこのんで食べるツメダニの仲間がやって来てこれまた繁殖をはじめめる。この捕食性のダニの珍奇な生態もこの映画で始めて明るみに出された。ツメダニは毎日何匹ものコナダニを捕え、その体液を吸って生長する。雄は、雌の若虫が脱皮して成虫になるのを待ち切れず、その動作を手伝って皮をぬがせ、脱皮完了するや直ちに交尾する。それが終わると、雌雄は後もふりかえず別れていく。雌は自分が産んだ卵を他のツメダニに食われぬよう、固いガードをつづける。そして、コナダニ類を食いつくすと人の肌を刺してかゆい皮疹をおこすことも証明された。



だが、皮膚科医たちは、実際にダニに刺される人々の何倍にも上る、ダニ・ノイローゼの患者との対応に悩まされている。そういう幻のダニの被害も馬鹿にならない。

それにしても、何日もの徹夜観察をつづけてこのむずかしい顕微鏡の撮影にとりくみ、すばらしい技術で学界にも貴重な記録を完成されたカメラマンやスタッフの方々の腕と努力に深甚な謝意を捧げたい。



ダニから多くのことを考えさせてくれる好篇

科学ジャーナリスト
元『自然』編集長

岡部昭彦

アップにされた画面いっぱいのダニは、いかにもしたたかである。たかが虫けらなどと侮ってはいけない。万物の霊長であることを自任する人間さまをぜんそくにまき込み、はてはノイローゼにまで陥れるからこわい。何分にも、昆虫、ダニ類、その他、虫どもときたら地球上の生きものの大部分を占めるのだ。しからばこちらもしたたかに、と勇み足を踏み出しそうになる。しかし、ゲリラを得意とする彼らには、現代戦最大の武器である核、化学、細菌の諸兵器さえも通用しない。浅はかな人知をダニはあざ笑う。

この映画のゆきつくところは意外にも顕微鏡や化学の世界ではなく、立て付けのよい現代建築であった。いま、私たちの生活は人工のしがらみと化している。自然の変

化や四季の移ろいから遮断された人間の飼育箱のような住居が快適な生活空間として切り売りされることに、いつしかなれっこになる。冬は少々寒くとも、夏には風通しのよい風土に適した住居と引きかえに、私たちはダニの大量培養器までを知らぬまに買い込んでしまったのだ。急速な文明化には大きいアンバランスがともなう。

画面にうごめくダニの姿をみつめながら、敵との全面戦争の泥沼にあがくのではなく、彼らを“だましたまし”して暮らした先祖の素朴な知恵をふと思う。とにかく、“虫が好かない”などといっておられない。文化ダニ学(?)の探検と決め込んではいかがなものか。

そんな多くを考えさせてくれるユニークな映像である。

■ダニの被害から対策まで

ダニの種類	被害	主な生息場所	エサ	対策
ヒョウヒダニ	小児ぜんそく 鼻アレルギー	ジュータン 布とん、毛布 ぬいぐるみ 畳	フケ あか	エサとなる有機物の 掃除と乾燥 (ジュータンのある洋間)
ケナガコナダニ	なし (不快感)	古い畳 食品	わら かび 食品	畳の乾燥 (畳のある和室や 新築マンション)
ツメダニ	刺す	新しい畳 ジュータン	他のダニ	エサとなる他の ダニの数を減らす

■室内ダニの発生3条件

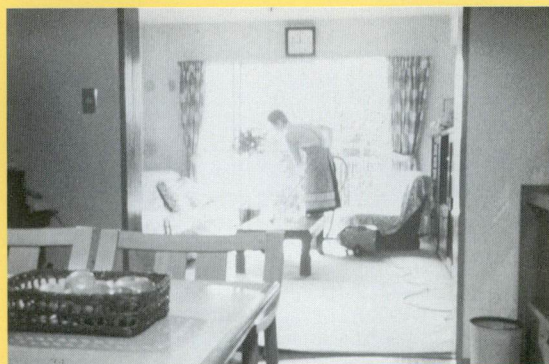
- ① 温度25～28°
- ② 湿度65～80%
- ③ 産卵場所がある

■製作スタッフ

製作	村山英治 村山英世
脚本・演出	土屋信篤
撮影	西山東男 三室清文
解説	伊藤惣一
照明	重田清三
音楽	山崎 宏

■対象・用途

- ◎一般(青年・婦人・成人):家庭生活における健康管理
- ◎学校教育(中・高校生):理科、生物、保健体育、家庭科
- ◎専門(医療従事者、保健所、衛生管理者、
病虫害研究者、防疫関係者)



■製作＝株式会社 桜映画社

東京都渋谷区代々木1-57-1 代々木センタービル
〒151 TEL 03(3320)6311 FAX 03(3320)7666